

平成23年度第7回幸区区民会議

日 時 平成24年3月29日（木）午後6時30分

場 所 幸区役所5階第1会議室

午後6時30分 開 会

開会

司会 それでは、定刻となりましたので、ただいまから第3期幸区区民会議第7回会議を開催させていただきます。

私は幸区役所企画課長の鈴木でございます。本日の会議の進行役を務めさせていただきます。どうぞよろしくお願いたします。

では、開会に当たりまして区長からごあいさつをお願い申し上げます。

1 区長あいさつ

区長 皆様、こんばんは。委員及び参与の皆様方におかれましては、お忙しい中、御出席いただきましてありがとうございます。また、きょう午前中は夢見ヶ崎公園に関連しました式典に御出席いただきまして、ありがとうございました。

さて、前回、1月26日に第6回の区民会議を開催してから、はや2カ月ほどがたちました。いよいよ第3期の区民会議も大詰めでございます。仕上げの段階ということになるかと思えます。多忙な折、この間も非常に精力的に活動していただいております。ありがとうございます。

今期の区民会議におきましては、提言だけではなく、課題解決に向けた調査、審議等についてもお願いをしておりますが、環境部会におきましては、昨年10月に始まった小中学校へのゴミ分別出前講座を13校で実施し、それらを踏まえて提言内容の御検討に入っていると伺っております。また、安心・思いやり部会におきましても、高齢者を対象といたしましたシンポジウムを区内3地区で開催され、非常にたくさんの方々に御参加いただき、課題の共有の場としても非常に有意義だったと伺っております。

御承知のとおり、区民会議は、身近な課題について地域の皆様と行政とが協働で解決を図り、暮らしやすいまちづくりを目指すものでございます。皆様の任期も残りわずかとなってまいりましたが、きょうは、御審議いただく内容、区民会議フォーラムの開催についてもございまして、非常に盛りだくさんとなっております。私ども事務局といたしましても精いっぱいお手伝いさせていただきますので、よろしくお願いたします。

司会 ありがとうございます。

それでは、会議に先立ちまして何点か確認事項を説明させていただきます。

本日の区民会議は、川崎市審議会等の会議の公開に関する条例における会議の公開の対象となっております。したがって、傍聴及び報道関係者の取材につきまして許可しております。

また、市政だより等の広報資料といたしまして、会議録の作成及び写真、ビデオ撮影をさせていただきますので、御了承をお願いいたします。

それでは、続きまして、お手元に本日配付させていただいております資料等の確認をしていただきます。

まず最初に、本日の会議次第です。続きまして、資料としまして環境部会の経過報告書、そして安心・思いやり部会の経過報告書でございます。資料3としまして「区民会議フォーラムについて」、次に、別紙1が座席表でございます。事務局の出席職員は、区長、副区長のほか、審議テーマに関係する部署の課長が出席しております。別紙2が委員及び参与名簿でございます。その他の資料といたしまして、川崎市自治推進委員会報告書とその概要版となっております。こちらは委員さんのみ配布となっておりますので、よろしく申し上げます。

資料のほうはよろしいでしょうか。

それでは、改めまして、ただいまから第7回幸区区民会議を開催させていただきたいと思っております。これより議事の進行を西野委員長をお願いいたします。どうぞよろしくをお願いいたします。

## 2 審議事項

### (1) 「地域におけるエコ・環境の推進」の提言内容について

西野委員長 では、皆さん、こんばんは。先ほど区長もお話ししたとおり、最後の全体会ということで、これが終わると私も離れられてほっとするのかなと思いつつ、最後を務めさせていただきます。それでは、本日も皆様から多くの御意見をいただきたいと考えておりますので、よろしく申し上げます。

また、本日の会議の時間でございますが、8時ごろをめどとして進めていきたいと思っております。フォーラムの件がありますのでちょっと時間が延びるかもしれませんが、その点は御了承いただければと思っております。

本日は、はじめに専門部会の経過報告について、まず環境部会から御説明をいただきます。その後に意見交換を行い、その後、安心・思いやり部会から御説明をいただき、意見交換を行うという形で進めていきたいと思っております。その後に、先ほどお話ししました区民フォーラムについて御検討をしていただければと思っております。

それでは、(1)の審議事項「地域におけるエコ・環境の推進」の提言内容についてということで、君和田委員から部会の経過報告を15分程度で、よろしく申し上げます。

す。

君和田委員 環境部会の君和田でございます。私のほうから第7回全体会議環境部会の経過報告をさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

今回の発表内容は、第3期区民会議のこれまでの総括になります。内容は、大きく3つに分かれておりまして、「第3期区民会議の検討概要」「具体的な取組内容の検討」「第3期区民会議からの提言」となっております。

最初に、「第3期区民会議の検討概要」について発表させていただきます。

第1回全体会の際に各委員から提案された取り組み内容を整理して、第2期からの継続テーマと第3期の新規テーマを選定いたしました。新規及び継続テーマの案の内容を勘案し、2つの部会、A部会、B部会を設定いたしまして、本部会、私たちのA部会において、「自転車の通行マナーを向上させる取組の推進」を継続テーマといたしました。

次に、新規テーマですが、提案された複数のテーマについて部会で検討を行い、地域防災活動の推進、区内の交通アクセスの利便性向上、地域におけるエコの推進の3つのテーマを候補といたしました。これら新規テーマの3つの案について部会で検討を行い、1つのテーマに絞り込みを行いました。検討の結果、「地域におけるエコ・環境の推進」を新規テーマに選定いたしました。このテーマを選定した主な理由としては、区内の公共交通アクセスの問題や地域防災の問題と比較すると、環境エコの問題は自分たちの身近なテーマであること、地球温暖化は深刻で複雑な問題であるが、まずは自分たちができるところから取り組みを始める必要があること、ごみの問題については、ごみ出しのルールを徹底するなど、ごみを出す人の意識の啓発等が必要であることなどが挙げられました。

新規テーマと取り組み内容を勘案して、簡潔でわかりやすい名前として、正式な部会名をA部会から環境部会に決定いたしました。部会長、副部会長については、委員の互選により、部会長には君和田、副部会長には石原委員を決めさせていただきました。

ここからは「具体的な取組内容の検討」について発表させていただきます。

まずはじめに、新規テーマの具体的な検討について発表させていただきます。「地域におけるエコ・環境の推進」の具体的な展開としては、平成23年度から全市で開始されたミックスペーパー回収、幸区など一部の区で開始されたプラスチック製容器包装の分別回収などと連動した区民のごみ分別意識の啓発活動に取り組むことといたしました。具体的には、ここに挙げる4つの内容を検討して、小中学生を対象としたゴミ分別の出前講座の実施とゴミの分別のPR・イベントの実施の2つに取り組むことにいたしました。

次に、具体的な取組内容のゴミの分別のPR・イベントの実施について発表させて

いただきます。

これらについては、区内の大規模イベントにおいて、ゴミの分別のPRやイベントを実施することを検討してまいりました。具体的な取り組みといたしましては、リレーカーニバル及び幸区民祭の2つのイベントで取り組みを行いました。1つ目は、区民会議としてブースを設置し、ブース内でゴミ分別ゲームを実施すること。2つ目は、イベント会場内にのぼり旗を設置して、区民会議委員がおそろいのジャンパーを着てゴミ分別のPRを実施いたしました。

両イベントでは、こちらの写真にありますようなブースを設置して、参加者を対象に簡易なゴミ分別ゲームを実施し、参加記念品を配付いたしました。区民会議を知らない人も依然として多いということから、区民会議では2つの部会全体でおそろいのジャンパーを作成して、活動の際には参加者全員が着用し、区民会議をPRするようにしてまいりました。ゴミ分別のPRの際にもジャンパーを着用し、意識啓発のためののぼりを立てて、参加者へのPRを行いました。

次に、小中学生を対象としたゴミ分別の出前講座の実施について具体的な検討の経緯を発表させていただきます。

川崎市では、環境局が小学生を対象としたゴミ出前講座を実施しております。区民会議では、幸区を管轄する川崎生活環境事業所と連携し、この出前講座の応用編として、ミックスペーパー、プラスチック製容器包装にある程度特化した出前講座を企画立案し、区内の小中学校において実施していくことといたしました。特に小中学生に興味や主体性を持ってもらうことを重視し、ゴミ分別ゲームなどの体験型プログラムを用意することといたしました。また、効果検証等を行うため、分別意識向上や実践状況を把握するアンケートの実施も検討いたしました。

各小中学校への実施要請などの交渉は、区民会議委員が地元やあるいは学区などを考慮しながら、事務局と連携して進めていきました。

これまでの実施状況ですが、10月19日の下平間小学校を皮切りに、4カ月間で計13の学校で出前講座を実施いたしました。

区民会議では、主に出前講座の企画立案に取り組んでまいりました。出前講座のプログラムはこのように作成をいたしまして、メインコンテンツにゴミ分別ゲームを位置づけました。ゲームの解説など、解説部分は専門家である川崎生活環境事業所の職員に担っていただくこととして、その他の部分は区民会議が担うという役割分担といたしました。

メインコンテンツであるゴミ分別ゲームについては、部会の中で委員が手づくりで企画をしてまいりました。大まかなルールを決めた後でプレゲームを行うなどして、委員が子どもたちの視点に立って内容を詰め、ルールづくりなどを行ってまいりました。そして、プレゲームの実施などを経て、ゲームのルールや出題するごみなどの内

容についての改良、追加点などを中心に検討を行い、ゲームの内容を固めました。

出題したごみは、ミックスペーパー、プラスチック製容器包装のほか、普通ごみ、資源集団回収、ペットボトルなど全項目といたしました。出題したごみの一部を写真で御覧いただいておりますが、実際に出題したのは全部で24種類でございます。

それでは、実際に実施した出前講座の写真を御覧いただきながら、各項目について解説をさせていただきます。

開会のあいさつでは、出前講座や区民会議の概要について区民会議委員が説明する形で行いました。

次に、ゲームの実施ですが、初めに5分間の時間を与えて班で相談しながら24個のごみを分別してもらう方法をとりました。分別は、机の上に5種類のかごを置いて、おのおのプラスチック製容器包装、ミックスペーパー、普通ごみ、資源集団回収、ペットボトルに分別してもらいました。また、この様子は川崎市及び横浜市の一部をエリアとするYOUテレビで放映されました。

5分間、各班で相談しながら分別した後、川崎生活環境事業所の職員により答え合わせを兼ねた解説を行いました。24個の分別に各班の答えを確認し、分類方法などについて1つ1つ解説する形で実施をいたしました。答え合わせの後には、生徒の素朴な疑問に答え、より深く理解していただくため、質疑応答の時間を設けました。環境事業所の職員からは、3R、紙は何でできているのか、プラスチックは何からつくられるのか、川崎市の埋立処分場はあと何年でいっぱいになるのか、そのような説明を加えていただきました。また、ミックスペーパーはトイレットペーパーに生まれかわるんだということで、生まれかわったトイレットペーパーの現物を見てもらいました。

ゴミ分別ゲームの実施結果は、学校別、種類別に正答率等を集計し、どのごみが間違いやすいかなどを部会で分析、整理いたしました。ゲーム結果を分析して、プラスチック製容器包装、ミックスペーパー、資源集団回収などを項目別に分けて整理いたしました。プラスチック製容器包装の分別は正答率が高い反面、ミックスペーパーの分別は正答率が低い結果になりました。特に窓つき封筒やレシート、パンフレット、カップ麺の容器についての分別がわかりにくいようでした。

講座の終了後は、各学校の協力をいただきまして、家庭へのアンケート調査を実施いたしました。アンケートの設問の内容は、御覧のようになっております。アンケート調査では、講座実施前後の分別実践の変化や分別への意見などを主に把握いたしました。

アンケートの分析結果はこちらのようにまとめました。講座受講前の分別の実践状況にかかわらず、受講後は分別の実践率が大幅に向上していることが確認できました。

次に、継続テーマの「具体的な取組内容の検討」、経過について発表させていただきます。

継続テーマは、「自転車の通行マナーを向上させる取組の推進」として検討を行ってまいりました。2年間の検討の中で、昨年10月に警察庁が「良好な自転車交通秩序の実現のための総合対策の推進について」の通達を発表して、主に歩道における自転車走行の規制強化に向けて動き出すなど、社会的にもこのテーマへの関心が高くなっている状況です。

「具体的な取組内容の検討」と並行いたしまして、区民への啓発活動も実施しております。昨年11月の日吉まつりの際には、区民会議が設置したブース及び周辺において、自転車のマナーアップ啓発活動を実施いたしました。

部会での主な提案、意見としては、警察と連携したマナーPR活動、町内会・自治会の回覧板によるチラシ配布のほか、厳罰化の促進、インパクトのある取り組みをしていくことなどが検討されました。

これまでの提案をもとに検討を重ねた結果、幸区で自転車マナーの日をつくることを区民会議が提案していくこととなりました。具体的にこのような日をつくることで、関係する団体と連携して、マナーアップなど意識啓発活動に取り組んでいくことを目的としております。具体的には、幸警察署や交通安全対策協議会、地域などと連携して、街頭で自転車に乗っている人にチラシを配布するなどの意識啓発活動を実施する。また、イベント時に自転車マナーの啓発活動等を実施するなどを想定しております。

最後に、新規テーマ及び継続テーマについての「第3期区民会議からの提言」について発表させていただきます。

新規テーマである「地域におけるエコ・環境の推進」では、これまでの検討や取り組みを通じ、次の提言を行うこととなりました。新規テーマの提言、「ゴミの分別方法に対し、区民の目線に立ったわかりやすい情報提供を行い、ゴミ分別を徹底し、地球環境への意識向上を図る」です。

継続テーマである「自転車マナーの向上」では、これまでの検討や取り組みを通じ、次の提言を行うこととなりました。継続テーマの提言、「定期的かつ継続的な意識啓発活動を展開し、区民の自転車マナーの向上を促進する」です。

以上で環境部会の報告を終わります。どうもありがとうございました。

西野委員長 君和田委員、どうもありがとうございました。

それでは、今まで発表していただいたことを全体で確認したいと思います。これまで、一連の審議を踏まえて、感想などがありましたらお願いしたいと思います。出席の委員さんは最後でございますので、これから1名ずつ御意見を、ちょっとずつでもいいですから、いただければと思います。まず、君和田委員から、こちら側から順番

で。今まで環境部会でかかわってきたことに対して。

君和田委員 とも、我々環境部会としては、身近な、今盛んに話題になっているとい  
いますか、関心のあるテーマをとらえて、そして、それが行政ともちょっとリンクし  
た活動ができたということと、それから、やっぱり自分たちで少しでも努力なりアイ  
デアを出せば改善につながるんだというふうなことを勉強できた期間だったと私は感  
じました。ですから、今日は最後に私が報告することになりましたけれども、本当に  
やってよかったなという感じで、この環境部会をやった感想でございます。

以上でございます。

○石原委員 こんばんは。石原です。今、君和田さんがお話ししましたけれども、部会  
長、副会部長ということで、皆さん方と一緒に、委員さんたちとこの環境部会で、そ  
れこそエコについて話し合ってきたして、一番私、印象に残ったのは、出前講座に行  
って、小学生たちと触れ合ったことなんです。小学生も、いつも目がきらきら輝い  
て、いろんな点で一生懸命にまじめに取り組んで、そこに学校の先生も加わって、い  
ろいろなことが出前講座によってできたということです。子どもたちがまた家庭に帰  
って父や母、兄、妹、弟等にお話しして、これから世代を担う子どもたちが将来、エ  
コに向けて取り組んでいけたらなんて、すごくそのとき、私、感じました。

何しろ、この地球温暖化ということ踏まえて、今は石油等も値上がりしている。  
いろんな点でエコに取り組まなければいけない。また、この夏は節電ということもま  
た叫ばれておりますので、環境部会はいろいろな点で今後のテーマにまた継続してい  
ければいいかなと思います。

自転車がすごく、今、マナーが悪いということで、自転車のマナーにも取り組まな  
ければいけないということで、皆様方と話し合いました、私、感じたことは、自転車  
が車道を通らなきゃいけないということで、その車道が幸区は特にすごく狭いんで  
す。車道を通ると、危なくてとても通れないから歩道を自転車に乗っていかなければ  
いけないということで皆さんの声がありますので、今後、警察署とも取り組んで、こ  
れも役所のほうでも道路の拡張とか何かも大きなテーマに取り組んで、安全に皆さん  
方が自転車に乗って、交通事故のないように取り組んでいかなければいけないとい  
う大きなテーマで、これはずっと継続していく問題なのかなと私個人では考えており  
ます。

以上、ちょっと長く述べさせていただきましたが、2年間の総まとめということで  
述べさせていただきました。何か急に言われましたのでとりとめもないお話をいたし  
ましたが、失礼しました。ありがとうございます。

押山委員 委員をしております押山です。今回そういう出前講座をやって、小学生たちは  
すごく素直で、やってよかったというのがまず実感です。やっぱり出前講座をやらな  
ければならない必要性ですよね。地球温暖化はすごく差し迫った問題で、特に去年は

タイの水害がありましたけれども、如実にそういった地球温暖化が進んでいると子どもたちに訴えることができたし、それに対して子どもたちも大変素直に聞いていただいたということで、大変なことでありましたけれども、本当に楽しい出前講座だったと思います。

あとは、継続審議のことで、自転車のマナーアップということであるんですけども、私は、交通部長会のほうの関係もありますので、私の個人的見解としては、やっぱりマナー、マナーと言うことではなくて厳罰化、その辺をもう少し区民会議としても何か提言できればということで考えております。

以上であります。

北野委員 委員をしています北野です。出前講座については、先ほども委員の方々がいろいろおっしゃっていましたが、やっぱり若い世代の子どもたちが素直で、本当に真剣であったと。親のほうがなかなか守っていないなという感じで、できればこういう講座を今度は区民会議ではなしに、定期的に学校のほうで、1時間でも2時間でも、ずうっと継続していくことが大事じゃないかと思うんです。それをずうっと繰り返す。子どもたちが成長してどんどん親になっていくわけですから、これは絶対継続すべきだと思うんです。子どもたちも物すごく楽しくやっていたし、非常によかったと、これは思います。

したがって、授業参観、親御さんがいた教室もありましたね。親御さんのほうが逆に勉強になったみたいですから、できれば授業参観のときに学校のほうで、教育絡みの、教育委員会のほうかもわかりませんが、ごみ分別だけじゃなしに、これに通じた環境、また夏も東電の問題で節電ということがあるかもわかりませんが、そういうエコを含めてやっていったらいいなと思います。

それから、自転車についてですけども、せっかく幸区の日を設定するという提案をしたわけですけども、区民会議だけでチラシをまいたりというのは、もうてんでパワーもありませんので、日を設定したならば、いろんな団体が、幸区全員が、ガツと動くような日にしていかなければいけないなと思います。

以上です。

松脇委員 やっぱり僕は自転車の問題が今後も非常に大変だと思うし、私はきょう自転車で来たんですけども、走るところでも不安を感じますし、マナーという点では、例えば信号なんかも無視する人もいたり、雨の日に傘を差している人もいるし、携帯をしている人もいるし、自転車事故の恐ろしさ、怖さ、そこら辺と、やっぱりきちっと守るということを認識し合うことが、身近なテーマだけれども、大変大きな問題になってきたなと思いますので、北野さんのおっしゃったことはそのとおりだと思います。

林委員 林です。ごみの件ですけども、やっぱりすごく身近な問題から手をつけようと



いうところがすごくすてきだなと思っていました。しかも、ゲームを含めながら楽しく、なのに皆さんの意識が向上するという形で、分別状況も随分向上しているという報告もあって、すごい素晴らしいなと思いました。先ほど北野さんもおっしゃっていたとおり、継続することはすごく大事だなと思いますので、それにはどうしていったらいいのかななんて思いながら、お話を伺っていました。

あと、自転車の件で、ちょっとふと思ったのが、最近エコ、エコと言われているので、むしろ車を使うより自転車を使って通勤されたりという方がいらっしゃるんですけども、それでまたいろんな問題が出てきているなんていう話も聞いていて、本当に難しい問題だなと感じています。

以上です。

鈴木委員 日吉商連の鈴木と申します。自転車のマナーということで、私、一番感じたことは、よくイベントがありますね。イベントのときに自転車置き場というのがありますけれども、そこに整備員がおりますけれども、やっぱり整理員を無視してとんでもないところへとめたりする人が結構いるんじゃないかと思います。

あと、若い人なんですけれども、縦に並んで走っているならまだいいんですけれども、2人、3人で並進している場合があるんです。そういうときはやはり道の狭いところは自動車がどんどん走っていますから、一番危ないんじゃないかと、いつも見て思っております。

もう1つは、またこれも若い人なんですけれども、2人乗りがかなり多いんですよ。2人乗りというのは、やっぱり一番危ないことで、事故でもあったら2人ともけがをしちゃいますから、そういう面で、学校の先生とか近隣の大人たちがちょっと注意してもいいんじゃないかなと思います。

もう1つは、やっぱりこれも若い人たちだと思うんですけれども、信号無視を平気でしている方がおられます。自転車だからいいだろう、まだ車が来ないだろうということで、赤でも突っ切っちゃう場合がある。そういうところがまだちょっとマナーが悪いんじゃないかなと思います。

あと、自転車じゃないですけれども、バイクのほうももうちょっと警察で指導したらいいんじゃないかなということをおもいました。

以上です。

酒井委員 酒井です。ごみの問題なんですけれども、川崎市が始めたのが、横浜市よりずうっと遅いんですよ。うちのほうは月水金ですけれども、最初、始めるときには市長さんが、多くの金が浮くということで始めて、それから随分きれいにはなったんですけども、児童生徒よりも親のごみ投棄というか、網があるのに網をかけずにね。特に独身の寮、うちの前にはちょうど独身寮がありまして、私たちもカラスのちらかしで掃除をするんです。そうしないと、道路に散らばっちゃいまして、毎月、マンシ

ョンの管理で掃除に来る人に苦情を言って、こういうマンションのところは網よりも箱をつくってくれと言いましたら、わかりましたとやるようになったんですけれども、まず大人に各自治会あるいは町内会でそういう研修を受けてほしいなと私は思うんです。児童生徒は本当にまじめで、よくやっています。そういうわけで、ごみの件は大人のマナーがまだまだだめだということ。

自転車は、特に朝の新川崎へ行く通勤の人が、信号無視というか、左側を走っている、右側を走っている、もうめちゃくちゃで、特に日吉小中の登校のときなんかめっちゃくちゃなんですよね。本当に事故があったら大変ですよ。今、自転車は罰金制度があるでしょう。違反すると何万というお金を取られちゃうわけなんです。そういうことも恐らく知っていると思うんですけれども、人が見ていないから信号を無視しても平気である大人自体が、自分の子を注意するよりも、自分自身が正しいマナーを持ってほしいなと私は思っております。

以上です。

神谷（美）委員 神谷です。まず私が感じたことは、環境部会の方々の取り組みが非常にスピーディーだったということと、いろんなことに取り組んでいられるというのがすごく印象に残りました。特にこういった資料を見せていただくたびに、出前講座を4カ月で13カ所も回られたというような状況であるとか、あとはイベントを精力的にやっていたりとか、いろんな御苦労がございました。本当に御苦労様でした。

先ほどどなたかがおっしゃっていたように、川崎市はごみ分別が非常におくれていて、私自身もまだごみの分別についてはあいまいなところがたくさんありますので、こういった資料を見せていただくたびに少しずつ自分自身も勉強させていただいたので、いい機会だということをお礼申し上げたいと思います。

このテーマについては、これからもどんどんいろんなところ、中学校のみならず高校とか、もっと大人の方々に向けてとか、波及していただきたいなと思います。どうも、御苦労さまでした。

土倉委員 土倉です。よろしく申し上げます。1年間、環境部会の方、本当に御苦労さまでした。

今も言われていたんですが、出前講座等で区民会議の知名度をアップされたと思います。というのは、やはり講師だけですと限りがあるんですけれども、こちらから出かけて行って、区民会議の黄色いジャンパーを着て、いろいろな催し物のところとか出前講座に出かけることによって、ああ、区民会議ではこういうことをしているんだなという知名度がアップすることは、何か取り組んでいるテーマを実行させるのにすごく役に立つことだと思うんです。ああ、こういうふうに区民会議は一生懸命やっているところだったら、行政のほうも取り上げるのに、これだけ一生懸命みんな提案

しているんだから、考えようというようなことが出てくるんじゃないかなと、私は思っております。区民会議でも、アンケートで知らないという人が非常に多かったんですが、今回のこの行動で大分知られたんじゃないかなと思っています。

ですから、エコ、自転車に取り組む、このテーマも非常に良かったです、やはりこれから実際に実践していくということが大事だと思いますので、ひとつ継続で取り組んでいてもらいたいと思います。

以上です。

西野委員長 皆さん、御意見いただきまして、どうもありがとうございました。

私も一応環境部会の一員として一言だけ。やはりちょうど始まったときにタイムリーで、川崎市がエコ問題で分別を全面的にやるというところにちょうどこの会が始まって、うまくそれに乗れたのかな。

それから、自転車にしても、これはやはり小さいうちから覚えてもらって、ずうっと継続していく絶対的なテーマじゃないかなと。1回頓挫すると、多分そこでまたごちよごちよになってしまう。やはりこれは学校でも地域でも行政でも、少しずつでもいいから継続性を持って進めていければ、今よりもずうっと少しずつ上がっていくんじゃないかななんて、ひとり言で思っていました。

では、ここで副委員長から、まとめといいますか、ひとつよろしくをお願いします。

神谷（厚）副委員長 皆さんの意見、ありがとうございました。

最初に決めたときも、早くに企画して、いろんなことをやらなければ、どんどん時間がたっていくなという感じがありまして、この1年間はどんどん、13回も講座ができて、すごくよかったと思います。やっぱりごみ分別のPRは、積極的に取り組まなければいけない問題ですし、それにあわせて区民会議のPRもという問題もありましたので、この部会は早くから皆のその意見を、気持ちを一緒にして進めたところがよかったと思います。

また、机上だけではなくて、みんなが外に出て、直接企画、講座に参加というところがよかったと思います。区民の皆さんのいろんな意見も聞かれました。将来ある子どもたちがこのエコについても随分意識を持ってくれたというような手ごたえも感じられましたので、本当にいい企画だったと思います。また、皆さんの意見にもありますように、大人の人たちももっともったこの意識を持っていてもらわなければいけないので、本当にこの問題についても継続する部分があればいいなということを思っております。

最終的に、ここの提言には「ゴミの分別方法に対し、区民の目線に立ったわかりやすい情報提供を行い、ゴミ分別を徹底し、地球環境への意識向上を図る」、とても立派な言葉で書いてありますけれども、私たちもみんな、自分たちが何かできることを考えて続けていけば、みんなの意識も少しずつ変わっていくんじゃないかなというふ

うに思っております。

次の自転車マナーの件ですけれども、これもまた本当に難しい問題で、なかなかちよっとの1年、2年で取り組みが終わるような問題ではありませんので、幸警察さんや交通安全対策協議会さん、町会とか、いろんな協力を得ながら、みんなの力で進めていって、押山委員がいろいろなところで厳しい意見を出してくれましたけれども、やっぱりそういうふうにはっきりとした問題意識を出していくことも大事なのかなとも思いました。

以上です。

西野委員長 すばらしいまとめをいただきまして、ありがとうございます。

## (2)「高齢者のサポート体制と地域コミュニティ」の提言内容について

西野委員長 続いて、審議事項(2)です。「高齢者のサポート体制と地域コミュニティ」

の具体的検討ということで、神谷美和委員から、ひとつよろしく願いいたします。

神谷(美)委員 安心・思いやり部会の神谷でございます。それでは、第7回全体会議安心・思いやり部会の経過報告をさせていただきます。よろしく願いいたします。

今回の発表の内容は、第3期区民会議のこれまでの総括になります。内容は大きく3つに分かれており、「第3期区民会議の検討概要」「具体的な取組内容の検討」「第3期区民会議からの提言」となっております。

まずは、「第3期区民会議の検討概要」について発表させていただきます。

第1回の全体会の際に各委員から提案されました取組内容を整理いたしました。第2期からの継続テーマと第3期からの新規テーマを選定いたしました。

新規及び継続テーマの案の内容を勘案し、2つの部会を設定し、本部会、こちらをB部会といたしまして、「夢見ヶ崎公園の魅力発信に関するソフト的取組」を継続テーマといたしました。

次に、新規テーマですが、提案された複数のテーマについて部会で検討を行いまして、緊急医療情報を含む高齢者の日常生活に対するサポート体制の強化、そして、地域コミュニティ活動の推進の2つのテーマを候補といたしました。この2つの新規テーマを設定いたしました。高齢者とコミュニティは密接に関係していること、そして、コミュニティの拠点づくりには人が集まる仕掛けづくりも重要であるなどの議論がありまして、2つのテーマを同時に検討していくことといたしました。

部会では、特に地域における弱者の方のサポートと交流の場づくりを中心に取組みを検討してまいりました。主な検討内容につきましては、資料に書いてございます。

そして、部会名は安心・思いやり部会といたしまして、部長には土倉委員に、副部長は私、神谷が務めさせていただくこととなりました。

ここからは「具体的な取組内容の検討」について発表させていただきます。

まずはじめに、新規テーマの具体的な検討について発表させていただきます。検討の中で2つのテーマは「高齢者のサポート体制と地域コミュニティ」へと1つに融合されました。このテーマの中で具体的な取り組み項目として、主に3つが検討されてきました。以下に、この3つの項目別に検討の経過を発表させていただきます。

まず1つ目の救急医療情報キットの幸区版についてです。

具体的な検討の経過を発表させていただきますと、この取り組みは、東京都港区などで導入されております救急医療情報キットの幸区版を作成し、独居の高齢者などに配付するというものです。このキットは独居の高齢者世帯などに救急車が駆けつけた際に、その方がどんな持病があるかとか、かかりつけのお医者様はどこかとか、健康保険証のコピーなど、必要な情報を把握できるように、この写真にありますような簡易な入れ物に、これら情報をまとめて入れておくようにしたものです。

キットの検討に当たっては、コスト面での問題をクリアするために、空きペットボトルの活用などの方策も検討いたしました。しかしながら、個人情報保護の問題がネックとなりまして、そもそも配付したい世帯の抽出ができない、把握できないということから、残念ながら実現が難しいという結果になってしまいました。

そして2つ目の、特に独居など高齢者の実態調査について、具体的な検討の経緯を発表させていただきます。

部会の中では、何らかの施策を検討する上でまずは独居高齢者などの実態を知ることが大事という議論が高まりまして、そのため、高齢者などを対象とした実態調査の実施を検討してまいりました。検討の中では、川崎市や幸区など、既存の調査結果のレビューや高齢者を担当する課との意見交換、地区の民生委員の方々などの意見の把握等を行いました。

区民会議独自の調査として、独居高齢者の実態把握のためのアンケート調査の実施も検討いたしましたが、こちらも個人情報保護の問題から実施が難しいということがわかりました。そのため、部会の取り組みとして、高齢者などを対象とした意見交換会などを行い、その参加者に対して意見把握やアンケート調査をしていこうということに、内容が変わってまいりました。

こちらが部会の中で検討したアンケートの実施の概要です。「(アンケートの実施の流れ)」に書かれている内容ですが、アンケート内容の項目を洗い出したり、配付、回収方法、あるいは回収した内容をどのように分析していくかなどについても検討いたしました。このようなアンケートの立案もあったんですけども、実際には、先ほどから申し上げているように、個人情報保護法の問題があり、アンケートを実施することが困難ということになりまして、3つ目の高齢者を対象とした交流の場づくりというところに目を向けることにいたしました。

当初は、老人いこいの家などで落語などのイベントを実施して、あわせて食事会などの交流イベントを行うということを検討してまいりました。また、この取り組みの中で簡易なアンケートや困り事を話し合う場を設けるなどして、実際に皆さんからの意見を聞くことで実態把握につながっていくのではないかとということ想定してまいりました。

そういったことが検討されている中で、昨年3月に東日本大震災が発生したことから、本テーマの取り組み内容についても、イベント的な交流の場づくりということから内容を見直していくべきではないかという意見が出てまいりました。そして、検討の結果、震災をテーマとして高齢者層の困り事を話し合うシンポジウムを開催することとなりました。このシンポジウムの前段では、防災への意識を高めるため、川崎市危機管理室によるぼうさい出前講座を実施することにいたしました。

このシンポジウムの実施の背景や意義について、こちらのよう整理いたしました。四角の枠の中でございます。震災の発生後、地域による支え合いである共助の意識が高まりつつあるということ。被災地では、いまだ苦しい状況の中で地域の支え合い、地域コミュニティが活発化し、新たな交流の場も生まれてきているということ。そして、こうした支え合いができるのも、日ごろからの地域の中での自然な交流が行われ、交流の場があったからではないかということが大きいと言われていること。そして、このため、今回の震災を契機として、地震や防災についての知識や意識を高めつつ地域コミュニティの役割を見直していくことや、そのための交流の場づくりのあり方を検討することが必要ではないかという意見が交わされてまいりました。

これらの意見を受けまして、シンポジウムは、こちらにありますように、南河原、御幸、日吉の3地区で実施することにいたしました。部会の検討では、ある程度のコンセプトを固めましたが、まずはやってみることが大事なのではないかという意識が高まり、プレシンポジウムという形で南河原地区で第1弾を実施することになりました。全体の内容につきましては、こちらに書いてあるように、「いざという時のために役に立つ地域における防災対策出前講座～お年寄りなどを見守り、ふれあいを通して地域の支え合い活動を活発化させるには～」と設定いたしました。意見交換会では4つのテーマを設定いたしました。内容についてはこちらを御覧ください。

プレシンポジウムは、平成23年12月2日金曜日10時から実施いたしました。当日のプログラムは、この表にあるとおりです。当日は、ぼうさい出前講座以外の部分については、私ども区民会議の委員が主導的な役割を担う形をとりまして、意見交換会の誘導など、積極的に展開をしてまいりました。

こちらの写真がそのときの状況です。

まず、ぼうさい出前講座につきましてはですが、危機管理室の職員がイラストや写真、動画などを使いまして、テーマに沿ってポイントを中心に解説していただきまし

た。

その出前講座の後、10分ほどの休憩をとりまして、3つのテーマを設定した意見交換会を実施いたしました。意見交換会では戸張委員が進行役となり、会場に呼びかけを行いながら、参加してくださった方の意見を皆さんから伺いました。

当日は、参加者の方にアンケートを実施いたしました。結果の概要ですが、こちらの表にありますように、プレシンポジウムのテーマである、ふれあいを通じて地域の支え合い活動を活発化させるために必要なことは何かという設問に対し、全体の3分の2弱の方が交流の場づくりを掲げており、ほかの選択肢よりも高い傾向ということが把握されました。

その意見交換会でいただいた御意見や感想の中で、特に共助に関するものをこちらの表のようにまとめてみました。内容につきましては、幾つかいろいろな意見が出たんですけれども、震災の当日、御家族の方が都心で被災されて、発表してくださった方が、御自分で運転できないので御近所の方が車を出して御家族を迎えに行ってくださったとか、あとは、ひとり暮らしをされている御夫人が、避難先で近所の方々がいて、とても不安が薄れて、その避難所で情報を得られたといった経験のお話ですとか、広く共助を展開していく上で、どうしても個人情報保護法の壁がネックになるという御意見も上がっておりました。

プレシンポジウムを実施した反省点や課題についても部会で検討を行いました。主な内容ですが、意見交換会が発表形式であったために発言できる人が限られてしまうこと。独居高齢者の参加の方が少なく、把握したい困り事の内容が得にくいこと。また、場づくりの議論の時間が短いことなどが挙がりました。

そういった反省点や改良点を部会で検討した結果、その後のシンポジウムでは主に2つの変更を実施いたしました。まず1つ目は、テーマの変更です。シンポジウムでは、地域のコミュニティや場づくりに関するテーマを中心として時間を多く割くことにいたしました。2つ目としましては、意見把握方法の変更です。発表形式ではなくて、参加者を複数班に分けて、班のメンバーの方から意見を言い合うワークショップ形式に変更し、参加者全員の意見を把握できるようにいたしました。

シンポジウムを行った中で、女川町から避難された方が幸区に住んでおられまして、その方の体験談をお話ししていただきました。震災の壮絶さを訴える内容でありましたが、時折ユーモアを交えながら20分ほどお時間を割いてくださいますと、会場に来てくださった方も皆さん聞き入っておられました。この時間は、ぼうさい出前講座と意見交換会の間に設定をいたしました。

意見交換会では、区民会議の委員がテーブル別の司会となり、事務局はサポートとして参加いたしました。実施に当たっては、事前に打ち合わせを行い、議論の誘導方法などを調整いたしました。

また、ワークショップでは、御幸地区で4班、日吉地区で3班に分かれて実施いたしました。このワークショップの中で、テーブルごとに参加者のほぼ全員の方から細かく意見をお聞きすることができまして、参加者の方が別のテーブルでの意見も把握できるようにと、参加者全員が議論の後に再度お集まりいただいて、総括を行いました。

シンポジウムでも、プレシンポジウムと同様に、参加者の方へのアンケート調査を実施いたしました。アンケートの設問については、より内容を具体的にし、細かいニーズを把握できるように工夫いたしました。アンケートでは、一定数の独居高齢者の方にも御協力いただくことができたために、独居高齢者の方のニーズなども分けて分析いたしました。独居高齢者の方は、交流の場へのニーズとして、共通の趣味中心、年齢に関係なく参加できる場へのニーズが高くなっており、地域や年齢を限定せずに参加できる場が望まれているということが把握されました。

意見交換会の中で参加者の方からいただいた内容をこちらに整理いたしました。3つに分けて書かせていただいておりますが、地域間交流、団体間の連携、多世代交流の場づくり、このように整理させていただきました。

地域間の交流の中で特に印象に残ったのは、こちらにも書いてありますが、大規模マンションでの取り組みなんですけれども、複数のフロアでまとめて家族参加型の座談会を実施して意見の交換をしたりとか、緊急連絡網をつくって管理組合が独自に住民情報を把握していらっしゃるところもありました。また、町会同士の交流を促進するために、町会同士で連携して合同の運動会や敬老会を実施したなどということが意見として上がっておりました。

また、団体間の連携では、町会や老人クラブ、母親クラブ、そういった個々の団体が連携をとりながら相互に機能させていくという意見もありました。

多世代交流の場づくりでは、夢見ヶ崎公園や南河原公園で行われているラジオ体操、そちらには年齢を問わず多くの方が参加でき、自然な交流が生まれているというお話が伺えました。

次に、独居高齢者の見守り、コミュニケーションにおける工夫事例をお話しさせていただきます。こちらも3つほど挙げさせていただいております。

実施可能な見守りの方法といたしまして、外から見守る方法ということで、朝夕の洗濯物など、生活の状況がわかるものを気にかけてりとか、大規模住宅では生活が見づらいので中の状況がわかりにくいということで、独居高齢者の方に元気サインの旗、元気ですマグネットなどの掲示をお願いしているところなどがあるというお話がありました。

また、2つ目、キーマンなどの活用ということにつきましては、民生委員だけでなく地域のお店街なども、地域の広く細かい情報を有して、ネットワークが広い方が



いらっしゃるので、そういった方を通じて町内会や自治会、老人クラブ、ゆうあいチーム等と連携して、参加を呼びかけるという意見がございました。

また、その一方で、独居高齢者自身の日ごろの心がけも重要というお話もありました。こちらは参加されていた独居高齢者の方の御意見でしたけれども、日ごろから地域のボランティア活動に参加しておくなど、地域の役に立つ形で地域とつながっていくことも大事であるということでした。

新規テーマの取り組みについての具体的な検討結果の発表は以上となります。

続きまして、継続テーマの「具体的な取組内容の検討」結果について発表させていただきます。

継続テーマは「夢見ヶ崎公園の魅力発信」を選定し、特にソフト的な取り組みについて検討を行ってまいりました。

なお、幸区では、第2期区民会議の提言などをもとに実施したアクセス道の整備などを含むハード面での計画である夢見ヶ崎公園魅力発信実施計画を昨年3月末にまとめ、順次整備を行っております。本日午前中には、南加瀬23号線アクセス道の整備、トイレの設置完了に伴う記念式典が行われました。区民会議からは、代表として西野委員長がテープカットに参加してくださっております。御苦労さまでした。

ソフト的な取り組みについての主な検討内容ですけれども、ソフト面での取り組みを進める上では、利用者のニーズをしっかりと踏まえることが必要であり、ニーズ把握そのものが意義があるということになりまして、既存の取り組みと連携し、利用者が満足できる具体的なソフト施策を実施していくなどということが考えられます。

基本的な方向性を定めた後で具体的な取り組み内容について検討を重ねた結果、2つの取り組みを行うことといたしました。1つ目は、利用者へのニーズの把握、アンケート調査の実施です。こちらは、夢見ヶ崎公園の利用者に対して、既存の取り組みへの満足度、認知度や公園のニーズを把握するアンケート調査を実施するものです。2つ目は、夢こんさぁとと連携したイベントの実施です。こちらは、幸区役所と区民のパートナーシップにより平成9年から実施されている夢こんさぁとと連携して、夢見ヶ崎動物公園において野外コンサートを実施するものです。

1つ目の取り組みであるアンケートにつきましては、夢見ヶ崎公園で昨年11月の日吉まつりの際に実施し、約100の方に御協力をいただきました。アンケートでは、公園利用者の特性、現状の取り組みの認知度、満足度、将来像などを把握いたしました。アンケートの実施日時につきましては、平成23年11月20日曜日となっております。こちらのアンケートの主な調査結果についてですが、将来のあり方について、子どもを対象とした遊び体験やイベントのニーズが高くて、野外イベントがそれに次いで高くなっています。このため、特に子どもが楽しめるような内容の野外イベントの充実に大きなニーズがあると考えられます。

2つ目の取り組みである夢こんさあとと連携したイベントの実施についてお話しさせていただきますと、こちらは7月から8月実施を想定しておりまして、時間は夕方以降、御出演してくださる方は女性のポップ系のアーティストの方が決まっております。コンサートの会場においては、区民会議のほかの団体と、夢こんさあと以外の団体と連携して、お月見の楽しめるようなよい雰囲気づくりのものを行っていきたいということで、企画の具体的な内容は、商店会や市民活動団体との連携に向けて、ただいま検討を行っている最中です。こういったことをPRとして市政だよりなどで、広報で展開していく予定になっております。

最後に、新規テーマ、継続テーマについて、区民会議からの提言について発表させていただきます。

新規テーマである「高齢者のサポート体制と地域コミュニティ」では、これまでの検討や取り組みを通じ、提言を以上のようにまとめました。まとめの段階では、これまでの検討や取り組みに加え、高齢者などのサポートに当たっては、日ごろの交流だけでなく日常生活面でのケアが必要不可欠であることから、交流の場に加え、日常生活のサポートについても情報提供を行うことを盛り込むこととなりました。

新規テーマの提言は、「高齢者など支援を必要とする方々のため、区民に『地域交流の場』や『日常生活のサポート窓口』の情報発信を進める」ということです。

継続テーマである「夢見ヶ崎公園周辺の魅力発信」の提言につきましては、夢見ヶ崎公園周辺が多世代交流の場となるよう、子どもを中心としたイベントを継続的に実施するというのが提言でございます。

長くなりましたが、安心・思いやり部会の報告は以上です。ありがとうございました。

西野委員長 神谷委員、どうもありがとうございました。

それでは、また先ほどの環境部会と同じように、最後ですので、土倉部会長のほうから順番に一言ずつ、よろしく願いいたします。

土倉委員 安心・思いやり部会のほうでも検討に検討を重ねまして、最終的に交流の場づくりというところに戻りまして、しかし、検討を重ねた結果、同じ交流の場づくりでも厚みが増しまして、私にとっては遠回りではなかったのかなと思います。やはり今回のシンポジウム等によって、老人はどういうことを求めているんだということがいろいろわかりましたので、今後この交流の場づくりを積極的に、次の委員に託して、やっていただけたらと私は心から願います。

それから夢見ヶ崎についても、せっかく今日も午前中、整備に伴う記念式典など行われましたが、私たちのテーマであるソフト面がまだ実行されていけませんので、ぜひこれについても、7、8月になって、来期になってしまいますが、やはり区民会議で強力にバックアップして、ソフト面の充実を今後図っていただきたいと思います。

ここ2年を通じまして、やはりなかなか実践でできなかつたことが心残りなんです  
が、しかし、非常に充実した会議をずっと迎えられましたので、本当にありがとうございました  
ございました。

神谷（美）委員 土倉委員からもお話がありましたように、最初からのテーマが二転三転  
して、さらにその中に震災もありまして、また話がもとに戻ったりとか、いろんなこ  
とを繰り返しながら、最終的にシンポジウムまで行きつけたことは、非常によかつた  
のではないかと思います。

先ほどちょっとお話しさせていただきましたが、被災された方のお話を伺って、や  
っぱりテレビや新聞等々で情報を得ていることとはまるで違うんだなということを実  
際に聞いたのは、非常にいい機会だったのではないかと私自身は思いました。それと  
同時に、やはり高齢者の方が日ごろどんなことに困ってられるのかとか、どうい  
うことを考えてられるのかということも、プレシンポジウムの中でわかることができ  
ましたので、また何かの形で御協力することができればというような感想を私は持ち  
ました。

それと、継続テーマであります夢見ヶ崎の魅力発信につきましては、私、夢こんさ  
あとの実行委員のほうからこちらに参加しておりますので、7月から8月に予定して  
おります夢こんさあとのほうでは本領発揮といえますか、こちらは皆さんに楽しんで  
いただけるコンサートを今企画中です。ぜひ1人でも多くの方々にお越しいただ  
けたらと思っております。ありがとうございました。

酒井委員 南河原地区、御幸地区、日吉地区で出前講座がありまして、それはすばらし  
い、良い結果といえますか、皆さん参加された方からの意見等も出まして、特に3月  
11日の震災を受けた方の本当に困った実の話を聞きまして、ああ、大変なんだな。ま  
ず自分の身を助けること、身を守ることが一番大事だということで、特に弱者、自分  
で身を守れない人をいかに救う、気をつけて助け出すにはどうしたらいいかというの  
を一番身につつまされました。

各地域で、本当に、昔あった向こう三軒両隣という形で、小さい輪でそうしてほし  
いなと思うんです。それをするには、各自治会なり町内会で話し合って、どうしたら  
いいかということ煮詰めてほしいなと思います。まず、自助、共助、最後に公助に  
なると思うので、まず自分あるいは近場の人の助けが大事じゃないかなと思うんで  
す。

それと、夢見ヶ崎でしょうかね。今日式典がありまして、大勢の親子連れが出てい  
ましたね。すばらしい道路も、歩道もよくなりまして、すばらしい夢見ヶ崎にこれか  
らなると思います。皆さんのお力できれいにしてほしいなと思います。

どうもありがとうございました。

鈴木委員 32ページの夢見ヶ崎公園で実施された日吉まつりにおいての「利用者ニーズ調

査（アンケート）を実施した」というところで、ちょっと気がついたんですけれども、これは夢見ヶ崎公園に関する利用者ニーズのアンケート調査だと思いますけれども、私自身、日吉まつりの実行委員でしたので、できましたら日吉まつりについてどういう御意見があるか、いろいろまたお聞かせいただきたいと思います。それを参考にして、日吉まつりをもっともっと充実した、皆さんに楽しめるようなよいお祭りを作りたいと思っております。

それと、夢見ヶ崎公園周辺の魅力発信というところで、ソフト面でいろいろ御意見をお伺いしたんですけれども、私は、ソフト面というより、もっとハード面で何かいろんな御意見、御提案があると思うんですけれども、そういう面でも、また夢見ヶ崎公園自体がだんだん変わっていくんじゃないかと思ひまして、そういうハード面のことも検討したいと思っております。

以上です。

林委員 高齢者の問題がメインになっていたのも、私も知らないことがすごくたくさんあって、いろんな意味ですごく勉強になりました。民生委員の方が訪問をされていて、独居の方に対していろいろフォローされているとか食事会を設けているとか、老人クラブの活動がすごく活発なこともわかりましたし、老人クラブの中でゆうあいチームというのがあって、老人クラブの中でもお互いに見守りをしていこうという取り組みもなされていることも知って、いろんな方が今までもいろんな意味で一生懸命に活動されていたんだなということを改めて知ることができて、すごく勉強になりました。

それを踏まえて、やっぱりキーは多世代という言葉だったのかなと思ひていて、高齢者同士とか民生委員とかという、ある枠の中ではある程度そういうふうなものが機能しているのかもしれないんだけど、地域ぐるみでごちゃごちゃとした感じで、先ほどお話があったように、向こう三軒両隣のような形の、おじいちゃんから小さい子までという感じの交流がやっぱり求められているのかなと、やはり肌で感じたと思ひています。

独居の方がやっぱりちゃんとしないととか、自分でこんなふうに生活するといいいんだみたいな話を伺うことができたりして、ああ、なるほどなど、1人で暮らしている方は、それなりに工夫して暮らしていらっしゃって、近所とつながろうと思ひていらっしゃったりしているんだなということもすごく感じられて、皆さんのお役に立てたかどうかはわからないんですけれども、私自身は本当に勉強になりました。それを、じゃ、どうしようということまで持っていけなかったのが、申しわけなかったなというふうに思ひています。

夢見ヶ崎公園周辺のソフト面でのイベントについては、私も「日吉のわッ」という団体の代表で出ていますので、協力できる部分は協力していきたいと思ひます。

ありがとうございました。

松脇委員 災害があった中で、高齢者の方の支援をどうするかといったときに、やはり実情を知りたい。自分だけではなしに語り合いたい。そして、そこから得た情報をたくさんの人に伝えたいということでシンポジウムを考えたんですけれども、スケジュール的に短いとか、果たしてうまくいくかと、大変いろんなことがありましたけれども、6ページに出ています三浦委員が方向性を示してくれましたし、また、戸張さんが大変、老人クラブとかネットを使ってくれて、シンポジウムができました。

やっぱりシンポジウムでよかったと思うのは、川崎市と幸区と、それから老人クラブと町内会と、高齢者の方、今、避難している女川町の方、それらの方々が1つの場で実際にあったことを生の言葉でしゃべり合って、随分みんなが気づいたんじゃないかなと、場ができたということが非常によかったと思います。

6つのキーワードを言うならば、自助努力の必要性、それから、幸区の実情を知る。弱いところですね。それから3つ目としては、やっぱり場の重要性。4つ目は、個人情報の壁がありますけれども、それを破るために自分のほうから手を挙げて、要援護者支援の制度をうまく利用すること。5番目は、行政とか情報をなるべくたくさん集める手段を日ごろから考える。6つ目としては、被災地の今までの経験を忘れることなく話し継ぎながら、次世代に伝える。この6つがキーポイントかと思いました。

それから、夢見ヶ崎につきましては、子どもを中心のイベントができればいいと思っています。私は孫娘の羽子板大会とたこ揚げを見たい。

以上でございます。

北野委員 思いやり部会は大変重要なテーマなので、本当に難しいことに取り組んで、御苦労さまでした。特にこのシンポジウムですけれども、3回、トライアルみたいなものだと思うんですけれども、地域が決まっていますよね。本来、独居老人とかいうのは、ちょっとでも離れると会場に行きにくいということもあると思いますので、こういうシンポジウムをミニ単位の本当の地域ごと、団体名は別としても、老人クラブなら老人クラブにそのユニットを入れて、幸区全員が受けられるような、ちょっと歩けば行けるというような仕組みづくりも必要かなと思いました。

ただ、シンポジウムに参加する人はまだいいんですが、普通、来られない方が本来問題じゃないかと。ニュースでも孤独死とかいろいろ出ていますけれども、そういう出てこない方をどうしていくかというような仕組みづくりも考慮する必要があるのではないかと感じました。

それから、夢見ヶ崎についてですけれども、日吉まつりとか、年1回のテーマですけれども、もっとミニ版、私は1カ月に1回ぐらい何か、先ほども言いました、子どものイベントとか、それから、日吉まつりのミニ版をもう1個ぐらいとかね。また、コンサートならコンサートのものというようないろんなメニューを組み合わせ、1

カ月に1回ぐらい何かイベントをやっていると、どんどん人が集まってくるんじゃないかと。秋なら秋のテーマとか、春なら桜を中心にお花祭りをやるようなことをやっていくような、定期的なことを考えられたらどうかなと思います。

以上です。

押山委員 今、うちの町会でも個人情報の問題がすごく問題になっていて、町内会の住所録の更新が10年間出されていないんです。そういったこともあって、委員長の西野さんの柳町では3年前にも更新して、また今回も更新されるということで、確かに住所録を見ると電話番号が入っていないところもあるんですね。今はそういう町内会に入らない人もいるということで、個人情報の問題がやっぱり今、思いやり部会の人たちの話でもあったと思うんですけども、私、すごく思うのは、日本国憲法ではないですけども、公共の福祉の考え方というのがあると思うんです。要するに、みんなのためになるかどうか、そういうことを考えて、個人情報の問題もあるけれども、要はみんなのためにどうするべきかということで、そういったことを考えると、個人情報にとられ過ぎているのは余り得策ではないような気がすごくするんです。

ですから、ここに救急医療情報キットというのがありましたね。これの幸区版をつくろうじゃないかといった取り組みをしようと思ったけれども、個人情報の問題でできなかったというお話がありましたけれども、やっぱり基本となるのはみんなのためになるかどうか、そういったことを考えて、少しでもそういったものを推し進めていくことが肝心なんじゃないかなと思います。

以上です。

○石原委員 皆さんの話をずうっと、最後のほうなので、私が言おうかなと思ったことは皆さんがすべて言ったので、私は余り意見が出せない状況に今陥っております。でも、何かしら最後だから言ってほしいということですので、あえて言わせていただきます。

今、押山さんが言ったように、救急体制が個人情報ということで壁になって、いろんな点で問題になっている。うちの町内会のほうでも、ちょっとこういうところと言うのも何かと思うんですが、町内会の全員の住所録と電話番号をということを話しましたら、名前はいいけれども電話番号を入れなくてほしいというのが出まして、電話番号を入れなければ困ってしまう。ということは、今、オレオレ詐欺がございますね。電話番号を見てかけられたら困る。だから嫌だという、そっちのほうもちょっと出ているんですね。ですから、今、いろんな方がお話しになりましたけれども、いろんな点ですごく問題が出てきていると思うんです。そういうことを1つ1つクリアしないと、いろんな点で、プライバシー云々もさることながら、今は住所録が犯罪にもかかわってくる。そういうこともかかわって、皆さん電話番号を余り公表したくない。今、それぞれ皆さん携帯電話番号を持っていますよね。ですから、自分のちゃん

とした電話番号を余り入れないということをいろいろと聞きますけれども、そういった意味でも、ちょっとそのことも考えなきゃいけないなと思っています。

それで、皆さん、シンポジウムを開いてということは、すごくいいことだなと思っておりますし、昨年3・11のあの災害の、今でも瓦れきとか、避難所生活を送っている人を見ますと、お年寄りとか何かが向こうでもすごく大変だ。こちらのほうでもひとり暮らしがすごく大変だということで、先ほども言いましたけれども、このシンポジウムに出られる方はいろんな情報が得られますけれども、出られない方が問題なんですよね。ですから、その辺を今後どうやって取り組んでいくか。民生委員はいろいろな情報を知っておりますし、町会長はいろいろとそういうひとり暮らしの情報も得ておりますけれども、いろんな地域の方は、それは余り公表できないみたいなことで、余り言えていない。

ですから、私もよく言うんですけれども、隣近所、お互いが声をかけ合って、人と人とのつながりが大切だし、みんなに思いやりを持って過ごしてほしいということは常々町内会の会議があるときに皆さんに伝えておるんですけれども、今、きずな、きずなと言われておりますけれども、何かきずなというのがひとり歩きしているような、文字だけが浮かび上がっている。本当のきずなということを改めて考えなきゃいけないという大きなテーマがございますけれども、この高齢者問題は、我々もいずれそういう年代に入っていきますので、今後の私たちの課題が大きなテーマとなっているんじゃないかなと思います。これはずうっと人間が生きていくうちの大切な問題だなと思っておりますので、もっともっと取り組む課題が多く出るんじゃないかなと思っております。

とりとめのないお話をるるさせていただきましたけれども、以上でございます。失礼しました。

君和田委員 大変なテーマといいますか、ボリュームのあるテーマで取り組んでこられて、本当に大変だったんじゃないのかなという気がいたしました。本当に御苦労さまでした。

私も、自治会長という立場から発表を聞かせていただきましたけれども、例えば参考になるようなことが幾つがありましたので、ぜひ、参考にして、生かしていきたいというふうに思います。

それと、震災のお話がちょっとありましたけれども、区町連で先月、福島のほうに研修会行ってまいりました。区長も一緒に行かれたんですけれども、被災地といいますか、海岸縁に民家は全くないというところをずうっと見てきましたけれども、本当にすごいんだなと。やっぱり現場を見ることによって、意識だとか、真剣さが違うんだなというのを改めて感じました。

そういうことをこの安心・思いやり部会で、途中でそんなことがあっても、なおか

つ活動をずうっと続けてこられたことは、本当に大変だったろうと思います。本当に御苦労さまでした。以上でございます。

西野委員長 皆さん、御意見ありがとうございました。

いみじくも、先ほど押山さんが、うちの町内会は町会名簿を定期的に更新しているということですが、基本的には電話番号は半分以上載っておりません。それはなぜかといいますと、やはり個人の自由ですので、載せていいですか、よくないですか、そこまで聞いてからつくります。

松脇委員 済みません、ちょっと、追加でいいですか。

西野委員長 はい。

松脇委員 我々の部会でも個人情報の問題が出たんですけれども、やっぱりどうしても集会に出たくないとか、おれは1人でいたいというのは、個人の、その人のあれですから、幾らその人に出ろといっても、それは無理なんです。だけど、その人たちにせめて、こういう場があります、それから、支援を得たければこういう制度がありますということはこのシンポジウムで得た知識の中で伝えていって、その後、その人がどう判断するかはもう個人の問題ですから、絶対に出たくない人をどうやって出るとかと、それはもう無理だという意見もありまして、僕はそういうのをわかります。それは個人の主義ですから。しかし、我々としては、そういう人たちに有益な情報だけは伝えて、その方の判断に任せたらいいんじゃないかと、自分的にはそう考えています。

西野委員長 ありがとうございました。

町内会の名簿の続きですが、うちの町内会では、私が町会長をやって何年たつかな。まだ4年かその辺しかたっていないんですけど、ずっと高齢者の調査をしています。行政のほうのあれは、なかなか民生委員さんは見せていただけないんですけども、この間、企画運営部会するときにもお話ししたんですけれども、4月以降に、独居老人云々とか、全部マップをつくるつもりでおります。町会の地図に、住んでいる、それで、こちらの表紙にはこういう人が住んでいる。そういうのを把握していないと、これから、先ほど言った、行きたくても行けない。行きたくない人は自由ですね。そういう人たちに、逆にチラシを配れる。それで、何かにつけていろんな、何せ、ちょっと余計なことは言わずにして、マップを24年度中にせめて作り上げようかなと思っています。

以上でございます。では、神谷委員、またひとつ、まとめをお願いいたします。

神谷（厚）副委員長 安心・思いやり部会も、いろんな経過をたどって、最初の高齢者の実態把握ですとかそういうものも、やはり個人情報保護法に阻まれた部分が随分あったかと思いましたが、震災後、皆さんが、交流の場、それから内容の見直し、いろんなところを検討されて、シンポジウムというので、南河原地区を皮切りに、御



幸地区、日吉地区と3地区全部を一応網羅できたというところは、すごく大きいと思います。

小さい中でのつながりはもちろん必要ですけれども、幸区というのはこの3つが何となく離れて行きにくい部分があったりするので、やっぱりこっち側だけ、南河原地区、それから御幸地区だけではなく、向こう側の日吉地区もいろんところで参加したいというものがいっぱいあったので、あのときはちょうど石原委員さんがそういう話も出してくださったと思うんですが、そういう中で、このプレシンポジウムからシンポジウムにつながっていったということは、とてもいいことでした。

あと、参加してくれた方たちの生の声を皆さんも聞けたということもすごくいいことで、それが小さい地域の中の自助、共助、また公助についても、プレシンポジウム、シンポジウムが一助になったのではないかとこのところ、とてもいい結果ができたんじゃないかと思いました。

あと、夢見ヶ崎の魅力発信のほうですけれども、今回の魅力発信実施計画というのも、3年かけている、どんどん実施していく、今回は1回目ということなので、また来年も再来年もこの計画が進んでいく中で、やっぱりいろんところで予算が必要。どんなことでも予算が必要になってくると思うんです。今やっている中で予算がついていますけれども、それが継続するには、またそれなりの予算が必要になってくるということで、この後、今度、魅力発信のための夢見ヶ崎の夢こんさあととか、日吉まつりとか、いろんところと一緒にあって、この後も夢見ヶ崎の魅力発信のためにつながって行って、やっぱりこれも継続していければ、みんなのためにも少し私たち区民会議がお役に立てているのではないかと思いますので、また続けていければいいかなと思いました。

もう1つ、今、皆さんの話を聞きながら、私も——何年でしたか。ここに参加させていただいているんですけれども、いつも思うんですが、区民会議は年齢の幅が広くて、若い人たちだけとか年配だけじゃない、中間層も、みんながしっかりした意見で話ができているので、ああ、この会議はすごくいいなというふうに、ちょっと思いました。今回で今期の区民会議は終わりですけれども、また次期もこういうふういろんな話ができたら、区民会議はもっとよくなるかなと思いました。

以上です。

西野委員長 どうもありがとうございました。

### (3) 区民会議フォーラムの開催について

西野委員長 ちょっと時間も押しておりますけれども、もうしばらく我慢していただいて、3つ目の審議事項であります区民会議フォーラムの開催についてということで、ちょっと企画課加藤さんのほうから、どうぞよろしくお願いします。

事務局 企画課の加藤でございます。資料の3を御覧ください。これまで、区民会議フォーラムにつきましては、6月に幸市民館の大会議室でやるということは決定しているかと思えます。定員も、大会議室で大体100名ぐらいということで話が進んでいるかと思えます。

本日御審議いただきたいこととしまして、1つ目はまず日程です。そもそも土日にやるのか、あるいは平日にやるのか。土日ですと、だれでも比較的来やすい日にちなのかなというのもございますし、逆に、対象を絞って、そうすると平日のほうがいいのかと、2通りの考え方があるかと思えます。

会場の都合上、括弧書きしてあるんですけども、それぞれ日程が限られておりますので、まず土日なのか、平日なのか、そのあたりをお決めいただいた上で、じゃ、いつやるのかということをお決定いただければいいのかなと思っております。また、決めるに当たりまして、午前中の開催がいいのか、午後の開催がいいのかということもあわせて御審議ください。

2つ目に、全体構成なんですけれども、これまで事務局のほうで御提示させていただきました案としまして、最初にまずアトラクションを30分から1時間程度、その後、区民会議の取り組み紹介ということで、取り組みの報告をした上で、参加者との意見交換をする。あわせて、会場にパネル展示をする。こういったものを事務局案として御提示させていただいたかと思えます。

アトラクションと区民会議の紹介の順序がそもそもこれでいいのか、あわせて取り組み紹介はこういう形でいいのか、そういったことも御審議いただければと思えます。よろしければ、次にそのアトラクションは何をやるのか。また、それはどういう出演者を想定するか。そういったことを御審議いただければと思っております。

資料の2ページ目ですけれども、こちらは事前に皆様に意見シートをお送りさせていただきました。集まった回答をまとめたものでございます。本日、これをもとに御審議いただければと思っております。

よろしく申し上げます。以上です。

西野委員長 ありがとうございます。

それでは、まず日程のほうからの調整ということで、今、事務局からお話がありました、土曜日か、あるいは通常の平日かということで、ここに(ア)と(イ)で出ておりますけれども、土曜日は、会場の都合上、9日の1日だけ。あと、平日のほうですけれども、8日、20日、22日とありますけれども、できれば、まことに申しわけない。4日と6日ということで御審議いただければと思うんですけれども、皆さんの御都合で、(ア)と(イ)のうち、極端に言うと3つしか選択肢がないことになってしまいますけれども、いかがでございましょうか。

松脇委員 我々の部会で言いますと、シンポジウムは全部ウイークデーだったんです。老

人の方とか。それで、やはり区民会議というのは区に住んでいる方を対象にするならば、勤めている人とか若い人とか、そうすると、やっぱり土日でないとなかなか出られないので、そこら辺の情報を、平日ではシンポジウムに参加できなかった方にするという意味で、土曜日にしたらいかがかと思います。

それから、アトラクションにつきましては落語とかいろいろありますけれども、さいわい寄席もありますので、ぜひ、小学校とか中学校の方の歌とか吹奏楽でもって、災害のときには歌で随分勇気づけられたと思いますので。それから、やはり子どもさんが出ますとお父さん、お母さんも出られるということもあって、アトラクションとしては、私は小学校か中学校の方の協力を得て、歌を中心にやったらどうかと思います。

以上です。

西野委員長 ありがとうございます。

今、休日ということと言うと6月9日ということになってしまうんですけども、もしそれでよろしいようであれば、もう多数決でいきたいと思います。絶対に平日という方はいらっしゃいますか。

神谷（美）委員 9日はだめです。

西野委員長 9日は、今、絶対にだめという方。

〔 挙 手 〕

西野委員長 逆に、9でも4でも6でもいい方というのは。

〔 挙 手 〕

西野委員長 1人だけですか。そうすると……。

石原委員 質問ですけども、土日開催という、これは日曜日に入っていませんね。

西野委員長 はい。

土倉委員 その日1日しかとれなかった。

西野委員長 これは、市民館の大会議室の。

石原委員 あいている日ね。日曜日は埋まっているということですね。だから、土日と書いてあるけれども、土曜日しかとれていないということですね。

西野委員長 そうです。

土倉委員 ただ、層からいったら、高齢者や何かは、私は平日の案なんですけれども、わざわざ区役所に訪ねてくるのはみんな平日ですよ。ですから、その人たちをうまく呼び込める方を何か考えれば、そのほうがいろんな人が集まるんじゃないかなと私は。

あと、高齢者については、土曜であっても、平日であっても別に構わないので、子ども等と呼ぶのでしたら、やっぱり休みの日じゃないと呼べないですからね、土曜日のほうがいいと思いますけれども。

私は、このフォーラムというのは大人の人に来てもらいたいので平日、フリーの客を呼ぶのでしたら、区役所に来た人を。極端な例でいきますと、このフォーラムで、日吉地区からわざわざ出てくる人というのはほとんどいないと思うんです。

石原委員 そうですね。

土倉委員 交通の便が非常に悪いので。これは近辺の人は可能ですけれども。そうすると、わざわざ区役所に用があって来たとき、のぞいてみるかなという人を呼ぶような形に。

石原委員 でも、全体的に区役所に来る人っていないじゃないですか。はっきり言って、一部の方でしょう。

土倉委員 そう。

石原委員 だから、その辺のことも考えなきゃいけないし、何しろ日吉地区は不便なので、皆さん、ちょっと大変ですよ。出てきてほしいという、よっぽどの何か大きな催し物がないとだめですね。

土倉委員 何か特別に引きつける魅力のあるイベントでもないと、来ないですよ。

西野委員長 多分、この話し合いは、日にちは決まらないと思いますね。それで、ちょっと妥協案ですけれども、きょう、4名の方が欠席なんですよね。そうすると、4名の方は欠席裁判になってしまいますので、できればこの、9日、4日、6日と日程を、事務局のほうから、以前みたいに配信していただいて、そこで皆さんが一番出席できる日にちを決めていただけるというのはどうでしょうか。

松脇委員 それは、委員の都合を優先して。

西野委員長 そうです。

松脇委員 来る方については余り、そっちのほうに重きを置かないという考え方ですね。

西野委員長 基本的に、もちろんたくさん来ていただきたいという、それもありますけれども、やはり今までずっと御一緒にしてきた方の中で1人でも多く出席していただいて、なおかつ、その出席していただける委員の方が両手に5人ずつ引っ張ってくるとかね。そんな気持ちでやっていただけるといいかななんて思うんですけれども、そんな妥協案でいかがでしょうか。

石原委員 いいと思います。

西野委員長 よろしかったら、ちょっと挙手していただけますか。

[ 挙 手 ]

西野委員長 では、私の勝手なあれですけれども、事務局のほうで、ぜひちょっとその辺のところで日程調整をよろしく。

事務局 わかりました。はい。では、こちらのほうから、また、アンケートではないですけれども、送付させていただきまして、決定したいと思います。

西野委員長 ありがとうございます。

事務局 ですから、その日にちの際に、自分の都合もありますけれども、集客で平日のほうがいいと思われる方は平日とか、土曜日のほうがいいと思えば土曜日に丸をつけていただくような形にしていいただければと思います。

西野委員長 よろしくお願いいたします。

事務局 はい。

西野委員長 では、日程のほうはそれでちょっと御了承いただきまして、あと、そのアトラクションの内容、それからやり方なんですけれども、基本的にアトラクションは、来たお客さんが帰らないように後にやりましょうと。それで、内容的には、発表する時間をあまり長くしますと、来たお客さんが飽きてしまうので、発表する間、極端に言えば、これをある程度概略をもうちょっとわかりやすくまとめて発表していただくわけなんですけれども、この内容は事前に——正味2時間ぐらいの設定として、長くて20分程度ですかね。それで、ちょっと休憩を挟んで、その後、何かアトラクションという形で進めていかれたほうがよろしいんじゃないかなと思うんですけれども。勝手に私だけ言っていますが、いかがでしょうか。

時間的には、何せ2時間ぐらい。あと、午前中か午後かというところもあるんですけれども、ちょっと決めなかったですね。

事務局 そうですね。午前中であれば皆さんの足の都合とかがありまして、10時から12時ぐらいがベストではないかなと思います。それと、午後につきましては、食事をしてから出てきますので、1時半から3時半とか、午後の場合はもうちょっと長くできるかもしれませんけれども、ただ、2時間ぐらいがちょうど、集中していろいろ話を聞くのにはベストかなと。そうしますと、アトラクションで30分から1時間ぐらいとりますと、事例の報告の場合は両部会ありますので、20分、20分とか、そういうような時間設定でどうでしょうかということですよ。

石原委員 意見をいいですか。午後のほうが、時間的に余裕があると思うんです。午前中だと10時から12時、お昼を挟んじゃうじゃないですか。私としては、午後のほうが時間的に余裕はとれると思うんですが、午前中だとちょっと主婦としてはいろいろな面で忙しいんです。ですので、午後のほうが、お食事を食べてから来たほうが。12時だと、皆さんお昼のお食事にもかかってくるじゃないですか。そうすると、ゆっくりして、来る方もお昼を食べて来たほうがいいんじゃないかなと。我々委員も含めて出られる方は全員、皆さんに声をかけて出られる方は、午後のほうが出てこられる率が多いんじゃないかなと私個人は思いますが。以上です。

西野委員長 はい、わかりました。

時間のほうはきょう決めておかないと、会場等々もありますので、できるだけ。

では、今、ぜひ午後という御意見がありましたけれども、絶対午前中じゃなきゃだめだという方はいらっしゃいませんか。

それでは、午後ということによろしいですか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

西野委員長 では、事務局のほうで、午後ということ、13時半から15時半程度ということで、よろしくお願ひいたします。

では、内容を。発表のほうは事前に、発表してくれる方、あるいはどんな形でというのは決めればよろしいんですけども、アトラクション的なものは、お子様方あるいはコンサートとか。

神谷（美）委員 お子さん関係だと平日は無理ですよ。

西野委員長 そうですね。

神谷（美）委員 思いやり部会のほうは、高齢者の方を中心にいろいろやってきたんですけども、ごみ、エコのほうの方々というのは、小中学生を対象にやってこられたので、私は、松脇委員の意見に賛成で、せっかくですから、多世代交流ということも考えるならば、やはりそういうお子さんが集まれる土曜日の午後とかのほうがいいんじゃないかなと。

西野委員長 日程はね。

神谷（美）委員 私、個人的には出られないんですけども、そのほうが集客という意味では人は集まると思いますし、内容にも何となく華やかさが出るかなと、活気づくんじゃないかなという気はいたします。

それと、もう1つ、被災された方で幸区にお住まいの、女川町から来ていらっしゃる方のお話が非常によかったもので、その方の被災体験も、もしお話しいただけるようなことがあればいいかなと、ちょっと思いました。皆さんにも聞いていただきたいと思いました。

西野委員長 それも企画運営部会のときにちょっとお話をいただきまして、その方の都合を聞いて、お話を聞けたらなということもありましたので、もし、神谷(美)委員が9日出られないんですけども、土曜日という御意見がありますので、今決めていただかなくても結構です。配信がありましたら、9日に丸をするだけでいいので。私が勝手に言うてはまずいですね。自由じゃないですね。

そういう冗談はちょっとおきまして、内容的なものはどういたしましょうか。今、神谷(美)委員がお話ししたみたいに、アトラクションのほうは子どもたちを呼んで何かやってもらうという、やっぱり土曜日じゃないと多分できないということ。そうすると、必然的に、プロの人を呼ぶわけにもいかないでしょうけれども、アマチュアの楽団あるいは落語家とか、マジックショーとか、そのようなところかと思うんですけども、いかがでしょうか。概略のところでもいいですよ。

土倉委員 本当に金をかけてアトラクションで呼ぶんだらできるけれども、なかなかアマチュアの人でアトラクションで引っ張ろうというのは無理なので、反対に、アト

ラクシオンは楽しめればいいやという程度で、集客の方法を考えたほうがいいんじゃないか。例えばこの間のシンポジウムのように、老人クラブや何かの協力を得て、ある程度、何名お願いしますということで呼び込みをやっていただいて、そのほうが人数的には集まると思うんです。だから、アトラクションで引っ張ろうとするのは非常に難しいと思います。

前回、何か子どもさんのがあったらしい——前回のシンポジウムを私は知らないんですけども、そのときも、20名か30名程度で、それが終わったらみんな帰っちゃったというような話を聞きました。だから、このアトラクションだけで引っ張るとするのは非常に難しいかな、やはり集客の方法を団体等に依頼して、1人でも多く来ていただいてというほうがいいんじゃないかなと。私の意見です。

石原委員 町内会が66町内会あるから、各町内会から5人ぐらいずつ出したって、すごい人数になるんじゃないですか。だから、各町会長にお願いをして、5、6人ずつ出していただくということだと、結構人数が集まりますよね。ですから、各団体よりも、そのほうがいいんじゃないかなと思いました。

西野委員長 それは幾らでも、全町連にお願いして、君和田さんとか土倉さんと、偉い方がいますからね。

神谷(美)委員 ちょっといいでしょうか。アトラクションというとあれですけども、夢こんさあとの実行委員を私はやっておりまして、隔月でやっているんですけども、今、お客様が大体150人ぐらい常時お入りいただけるんです。ですから、もしコンサートみたいなこととか、音楽関係のことでやれば、そういうことに興味のおありになる方はお集まりいただけるかなと。夢こんさあとも結構定着してきているので、そこにお集まりいただく方の年齢層は高齢者の方ばかりですので、お好きな方々が来てくださいますから、でしたら、そういうところでもお客様は呼べるかなと。

西野委員長 それは、日時というのは早目に決めないととか、平日とウイークデーは関係ないですか。

神谷(美)委員 夢こんさあとのほうで応募をしてきてくださった方々の公募がありますので、もしかしたら、その出演してくださる方を当てることはできるかもしれません。

西野委員長 今、神谷(美)委員のほうからそういう、もともとそれで、この発信、これも夢見ヶ崎ということで、それにかかわっている人たちが出てくれると、また1ついいことかなと思いますので、そうしたら、それを主にして、逆にその日程を決めて。

神谷(美)委員 ただ、音楽ばかりになってしまうとあれなので、落語とか、ここに書いてあるマジックショーとか、もし知っている方がいらっしゃるんだったら、そういうものもおもしろい。ただ、一応、ちょうど大会議室でやっていて、夢こんさあとは常時100人から150人ぐらいは集まりますということは、皆さんにちょっとお伝えし

ておこうかなと。

石原委員 たくさんのいろんな人をお呼びするのであれば、時間的に調整をしなきゃいけないでしょう。音楽関係とか、マジックとか、いろんながあると、その時間の調整が大変なので、プロの方はある程度時間をたくさんとらないと、やっていただけないんじゃないかなと。時間的に短いと、演奏するのにもちょっと時間があるわけじゃないですか。マジックをやるんだったら、マジックもいろいろとやってほしいということもあるだろうし。だから、3つも4つもじゃなくて、ある程度のメインも呼んでやったほうがいいんじゃないかなと、私個人の考えでございますが。

きょう決めなきゃいけないんですか。もう、時間が大分、ちょっと私、気になっちゃって。

西野委員長 いや、今日は何をやるというんじゃないかと、どの辺のところをやりましょうかということで。ですから、今、夢こんさあとの方から御協力を得る。もしそれが主に置いておいてだめであれば、マジックショーでも、あるいは落語でもいいですし。

いかがでしょうか。概略のところ、主はコンサートを神谷(美)委員のほうからちょっと協力してもらおうということで、それが流れるようであれば、おもしろい落語をしてくれるとか、あるいはマジックをやってくれるような方に声をかけていただいて、ちょっと段取りをしていただけると、そんなところで、皆さん、よろしいでしょうか。

神谷(美)委員 日にちが決まらないと、出演者の方とか、要望ができない。

西野委員長 そうなんですよね。

石原委員 日にちが決まらないと、予定というものが。

西野委員長 では、きょう日にちを決めちゃいますか。

石原委員 でも、さっきの話とまた変わっちゃうんじゃないですか。さっきは、来ない方にもお手紙を出してやることに。またくるくる変わっちゃうから。一本に、もうぱつと。

西野委員長 ですから、今決めるんだったら、決めちゃってもいいです。

酒井委員 そうね。日にちを決めたほうがいいね。

石原委員 では、いない人もそれで、欠席裁判ということだね。

松脇委員 アトラクションに関係があるから、日にちを決めないと、やっぱり。

西野委員長 そうですね。

松脇委員 ウイークデーになかなか来れない人もいるから、どっちかに決めて。

酒井委員 決めちゃったほうが早い。

松脇委員 決めて、ちょっと内容を検討しないといけないと思います。

西野委員長 そうですね。

神谷(美)委員、日程的に平日と土曜日とかというのは、どちらが。



神谷（美）委員 9日の土曜日だけはだめなんです。私が、どうしても午後はだめなんです。

西野委員長 神谷(美)委員がだめだとなると、それも連れてきてくれないということなので、またもとになります。今の内容、出演者は主にやってもらうということで、じゃ、9日はなしにしまして……。

松脇委員 夢こんさあとだけじゃなしに、例えば小学校だとか中学校。環境の部会のほうは、小学校とか中学校に出前講座に行って、あの人たちもその結果を知りたいし、だから、何も夢こんさあとがだめならウイークデーというのは、ちょっと乱暴だと思います。

神谷（美）委員 そうですよ。それはそうだと思います。

西野委員長 でも、一応、夢こんさあと主体でどうでしょうかという意見があったのでね。

松脇委員 それは1つの案で、例えば小学校、中学校の方というのも1つの案として成立すると思いますよ。小学校に行ってやっているし、やっぱり高齢者の方はウイークデーにやったんだから、サラリーマンの人なんかにも出てきてもらうには、やっぱり土曜というのは。ですから、夢こんさあとに行こうということでは、ちょっとないと思いますけどね。

神谷（美）委員 私もそういう意味ではなくて、音楽でもそうやって集客できますよという話がしたかったんです。

西野委員長 本当は、9日の日にもし決まったとして、神谷さんがいらっしゃらなくても、そういうお話はしていただけると。

神谷（美）委員 夢こんさあとのほうにということですか。

西野委員長 はい。

神谷（美）委員 一応、多分、大丈夫だと思いますが、私は、おっしゃるように、夢こんさあとをやるということではなくて……。

西野委員長 そうじゃなくてね。

松脇委員 音楽をやるとかね。

神谷（美）委員 音楽をやるとか、そういうことでも集客はできますよという話の一例だったので。

神谷（厚）副委員長 そっちのほうですね。

西野委員長 わかりました。では、またもとへ戻りましょう。

神谷（美）委員 はい。

西野委員長 では、そういうことで、日程的には先ほどの3つを選んで、配信して返事をいただくと。内容については、音楽関係を主体としてやって。

石原委員 音楽じゃないですよ。マジックとか何かもとあったでしょう。

西野委員長　そうです、そうです。

神谷（厚）副委員長　アンケートのほうも、日にちのアンケートも早い時期に発信して、すぐに皆さんの意見をもらえれば、時間的にはそんなにかかるわけではないので、各委員からの日にちの、4日、6日、9日のどれがいいかというアンケートを早くにもらえれば、そのところはクリアできると思います。そこら辺を早くしてもらえれば大丈夫じゃないですか。

事務局　早急に日にちのアンケートを出します。それで、早急に回答してもらおうような形をとりますので、よろしく願いいたします。

神谷（厚）副委員長　その後の企画運営部会のほうで、しっかりその辺のところをやれば大丈夫だと思うので。

君和田委員　やっぱり区民会議フォーラムは何のためにやるかということを基本に考えてもらって、我々も回ってきたときに、子どもにしても、区民会議って知ってるって聞いたら、いや、知らないという子も結構いたわけですよ。だから、そうすると、先ほどお話が出たように、やっぱり知ってもらうためのフォーラムでなければいけないだろうということになると、少しでも、あるいは1人でも多くの方が集まれる日程で決める必要があるだろうと私は思います。

西野委員長　もちろん。はい。

君和田委員　だから、そう考えると、基本的にはウイークデーというのはちょっと無理だろうと。ここで言われる日曜日は無理だろうとするのだったら、消去法じゃないけれども、9日の土曜日ということにならざるを得ないのかなという気がしますよ。

松脇委員　基本的に、委員が都合のいい日を第一にするという考え方は、僕はちょっと考えにくいので、やっぱり多くの方が参加できる日というのをベースにきちんと置かないと、何かこういう全体会議的なものになっちゃうので、少しそこは承服できないですね。委員の方が希望が多かったから4日でとか、本当にそれがベストなのかどうか、ここはやはり西野委員長にも考えていただきたい。

西野委員長　わかりました。私は、実は、9日でよろしいんですけども、ただ、はっきりと残っている方がいらっしゃるので、その人のこともちょっとお聞きしようかなと思ったんですけども、逆に、もうここで、9日だったら9日で決めてしまっても、別にそれは、皆さんがその意見でよろしければ、それはもう全然問題ないことで。

石原委員　では、時間的なことを考えたら、土曜日のほうが集まる率が多いと考えて、もうここで決めちゃったらどうですか。6月9日。

西野委員長　わかりました。非常に強い押しがございましたので、御意見をお示しして、9日の午後ということで、日程はそうしましょう。

〔「賛成します」「はい」と呼ぶ者あり〕

西野委員長　では、内容の件につきましては、先ほどのそれを主体として、またいろいろ

企画運営部会のほうで中身をちょっと精査したいと思います。そんなところでよろしいでしょうか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

西野委員長 なかなか決められなくて申しわけございません。皆さんの意見を聞こうと思えば思うほど、だめになってしまいますのでね。

それでは、一応フォーラムのほうの概略は、今日の議題も終わりましたので、本当にありがとうございました。

それでは、ちょっと時間も押していますけれども、参与の先生方がきょうはいろいろと話した内容で、沼沢先生は朝から寒い中式典に立ち会っていただいて。

神谷（厚）副委員長 済みません。本当に朝からご協力していただいて。

西野委員長 先生からちょっと御意見を。

沼沢参与 どうも、長い間といいますか、お疲れさまでございました。結論まで何とか至った、この動きも大変評価できるものかなと思います。

皆さんの共通の課題といいますか、自転車ということに関しまして、行政のほう、市のほう、また市議会のほうでもさまざま取り上げられておりますけれども、特に小学生、中学生、高校生などに有効な安全教室、警察が来て幾ら講話を垂れても、ちっとも耳を貸さないし、何を言っているんだといった事例が多いんですけれども、スクエアドストレートという、要はスタントマンが実際に車とぶつかる、こういう教育方法があるんですけれども、大変に有効でありまして、見た子どもたちは本当にびっくりするというところでございます。

ただし、スタントマンまたは車、自転車等々、壊れてしまいますので、この辺は今、YouTubeという、インターネットの環境があれば、ぜひちょっと見ていただきたいんですが、自転車、スタントマンと入れるだけで、安全教室がいろんなところでやられているんですね。逆に、警察も予算がありませんので、実際には各区1校ぐらいしかできないかもしれません。ですから、そういう画像だけでもちょっと、2つでも3つでもくっつけていただいて、学校に配るとか、あとは子どもたちに見せていくとか、こんなこともひとつ考えられるのではないかと思いますので、御提案させていただきます。

朝から大変にお疲れさまでした。

吉田参与 吉田でございます。長いお時間、本当に熱い議論をいろいろと伺うことができました。私もまた勉強になりました。本日2つの部会でそれぞれ取り組まれたテーマ、いずれも、これっきりにしなくて継続していくことがすごく大事ななと思いましたが、また、市議会のほうでもたびたび質問の対象になるテーマばかりでございました。1つ1つ本当に、いろいろ私もここで言いたいことはたくさんあるんですけれども、お時間もございますので。

これからもこの区民会議、参加と協働によって地域の課題解決をしていくということで、非常にいいキャッチフレーズがついていますし、こののぼりと、そして黄色いジャンパーというのがイベントで非常に目につく。これからこの区民会議の存在をもっとより多くの区民の方に知っていただくということで、今度のこの区民会議フォーラムも多くの方に区民会議を知っていただき、そしていろんな形で参加していただくということを目的にした形で、アトラクション楽しかったけど何だったんだろうねと思われぬようにしていくことが、やっぱりとても大事だなと思いますし、そうしなければもったいないなと思いますので、また何か私も参加できればと思っております。本当にお疲れさまでございます。

田中参与 活発な御意見が出ておまして、本当にお疲れさまでございました。そういった意見が出れば出るほど、西野委員長が気をもまれたんじゃないかなと思いながら聞いておりましたが、まずは直近で言えば、1月29日の日曜日ですか、ノクティで区民会議交流会をされておまして、皆様の幸区の発表がございまして、私も参与として拝聴させていただきました。お疲れさまでございました。

また、本日、審議事項(3)で区民会議フォーラムの開催、これが平日か土日かということで意見が皆さんあったんですけども、実は私もきょう聞いていた中で、(2)の審議事項で各委員さんが意見発表を最後にされていたんですけども、そこで実は答えが出ていたような気がしました。北野委員や石原委員が、何かシンポジウムだったり、やるのはいいけれども、来られない人をどうするのなんていうお話もございましたし、また、松脇委員からは、来たくなくて来ない人はしょうがないけれども、こういったものがあるんだよという情報を伝えて選択肢の幅を伝える、広げるということもございました。最後、神谷副委員長から、この会議は年齢の幅が多くていいねと、そういった話もありました。できる限りの可能性を拾っていく、そういったものがこの会議体の方向性なのかなと、そんなことを考えております。

参与として、一言ごあいさつとさせていただきます。ありがとうございます。

竹間参与 御苦勞さまでした。もう時間も迫っておりますので、1点だけ。

救急医療情報キットの可能性を検討していただいたということを伺いました。港区に私も行ってまいりまして、もう大分たっているのに記憶が定かではないんですけども、2点だけ思い出しました。要請して、救急隊が駆けつけるわけですね。それで、この家は救急キットがあるというのは、入り口に目印を張っておくということと、その救急キットの保管場所は冷蔵庫の中というふうに決めてあると伺いました。家の中を探している間だけでも時間をロスしてしまうので、印があったらその家の冷蔵庫をあけて、このキットを探し出すということだったと記憶しております。

そんなことを参考にさせていただいて、これからも、ひとり暮らしの人や、最近はも

っと広がってしまって孤立死なんていうことも社会問題になっているような状況がありますので、地域の連帯が行き届くような工夫なんかも皆さん方と一緒に考えていきたいと思っています。

本日は御苦労さまでした。どうもありがとうございました。

西野委員長 どうもありがとうございました。

参与の皆様の特段の御意見をいただきまして、この御意見も、これからの区民会議で生かされていくことと思います。参与の先生方、本当にありがとうございました。

以上をもちまして、すべての審議事項を終了いたします。

それでは、事務局のほうに、次のお知らせをよろしく願いいたします。

### 3 その他

司会 長時間の御審議、どうもありがとうございました。

本日の議事録につきましては、作成後、全委員に郵送いたしますので、御確認をお願いしたいと思います。

また、今後のスケジュールですけれども、6月の区民会議フォーラムの開催に向けての話し合いを第13回の部会で行います。環境部会は5月14日月曜日の18時半から、安心・思いやり部会は5月10日木曜日の18時半からとなっておりますので、よろしく願いいたします。

また、報告書につきましても、本日の内容を踏まえて作成いたしますので、こちらのほうも御確認をお願いいたします。

閉会

司会 それでは、これをもちまして第7回幸区区民会議を終了させていただきます。どうもありがとうございました。

午後8時39分 閉会